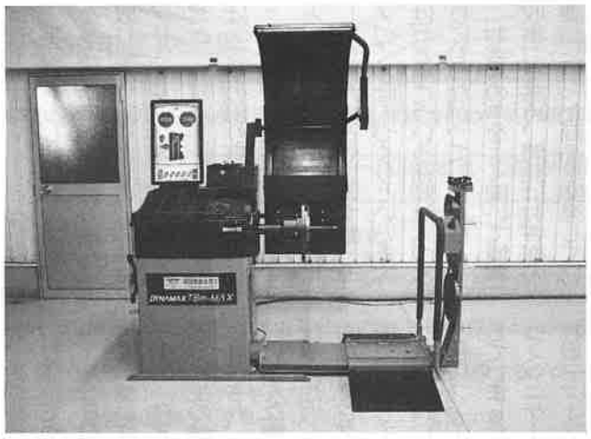
小野谷機工の新型ホイールバランサー

ダイナマックス「TBm－MAX」

小野谷機工はこのほど、超偏平ワイドシングルタイヤから乗用車用タイヤまで1台で測定できるハイエンドモデルのホイールバランサー「ダイナマックスTBm－MAX」を新発売した。操作しやすい液晶タッチパネルなど充実の機能を備え、幅広いタイヤに対応する。同社商品開発本部の竹内優作氏に新商品の特徴を聞いた。（木本）



新商品ダイナマックス「TBm-MAX」

新商品「ダイナマックス　TBm－MAX」は超偏平ワイドシングルタイヤから乗用車用まで、幅広い種類のタイヤのバランス測定が1台で対応できるのが最大の特徴。適用リム径は10インチ～30インチ、リム幅2インチ～20インチ、測定タイヤの最大外径は1100ミリとなっている。

超偏平ワイドシングルの重量に対応できるよう、測定軸の強度をアップ。250キロの重量まで測定可能になった。

早速、実際の作業を見せてもらうことにした。新商品は低床式タイヤリフトを標準装備し、作業者は全くタイヤの重さを感じることなく、楽々セッティングできる。超偏平ワイドシングルタイヤを作業する場合は、専用アタッチメントを取り付けての作業となる。アタッチメントはボルト固定で5ヵ所を止める。

また、アタッチメントはISO方式のセンターオフセットの10穴、トラックバス用10穴、JIS方式、ISO方式の8穴に対応。ライトラック用JIS、ISO方式、乗用車用ホイール対応はオプションとなる。

タッチパネルはタテ型21・5インチの大型液晶画面で作業しやすく、作業者は感覚的な操作でバランス測定作業が行える。

超偏平ワイドシングルタイヤの場合、作業者はスケールをインナー、アウター側にそれぞれ当てるとリム径・ディスタンスのデータが自動入力される。測定スタートボタンを押すと、自動でカバーが閉まり、測定を開始する。90rpmの低速回転のため、泥跳ねなどもなく、安全かつ短時間で測定可能。測定終了後は画面で自動的にウエイト貼り付け位置が示される。インナー側、アウター側の示された位置にウエイトを張るだけで作業終了。ホイールもライトアップされるため、暗い場所での作業でも安心だ。

超偏平ワイドシングルから乗用車用まで1台でOK

ライトアップで安心作業

それにしても、目の前でこの巨大なタイヤがバランス測定される様をみるのは改めて壮観だ。さぞ開発が大変だったことだろう。

乗用車用の測定は、「ダイナマックス　KsMAX」の機能を引き継ぎ、レーザー測定による完全自動入力となっている。スタートボタンを押すだけでレーザーセンサーがホイール内面を走り、リム径・リム幅・ディスタンスのデータを自動で読み取り入力される。回転速度は110RPMと、こちらも低速で短時間測定と安全に十分配慮された造りとなっている。レーザーポイントが位相位置を照射し、位相位置を自動検出し、停止するオートポジションサーチシステムを採用。貼り付け位置が即座に視認できるため作業も簡単だ。

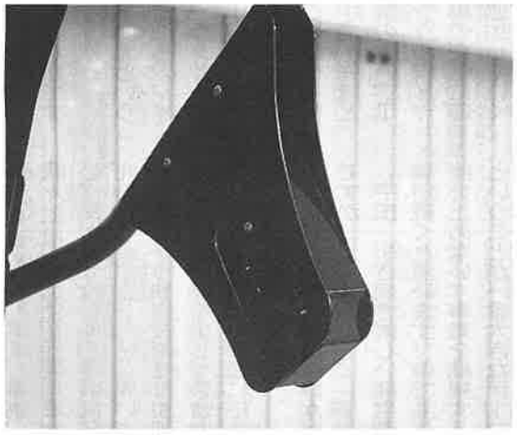
タイヤとリムの理想的な位相合わせを演算し、ウエイト量が減少するようベストポジションを指示するマッチング機能、ウエイトを表から見えないようにするための分割貼り付け機能（WAS機能）も完備しており、これもショップにとって助かる機能だ。

貼り付けウエイトだけでなく、スチールホイールの打ち込みウエイトにも対応。この場合はタイヤガードの横に取り付けられたソナーを使ってリム幅を自動計測すればOK。ウエイト置き場や各種コーン、ウエイトハンマーを収納できるウエイトカバーも装備。

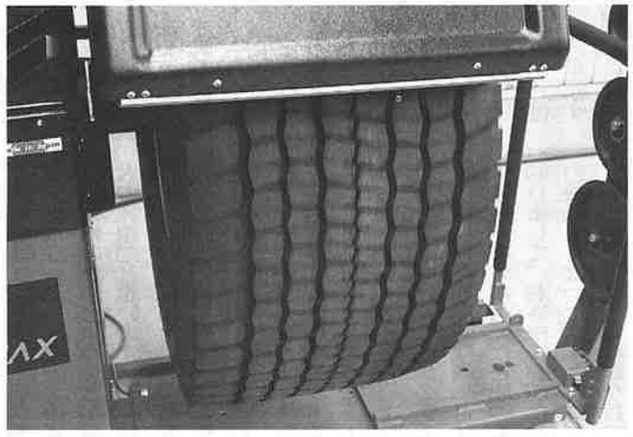
視認性のよい大型液晶画面

アタッチメントの取り付け作業

「ダイナマックス　TBm－MAX」。今後避けて通れない超大型偏平タイヤのバランス測定はもとより、乗用車用からトラック・バス用まで幅広いタイヤに対応する。操作は簡単で初心者にも簡単に扱え、誰が測定しても同じ測定結果がでる。ショップにとって注目の新機種が登場したと言えそうだ。商品問い合わせは同社本社（0778－22－2124）または各営業所まで。



スチールホイールはソナーで計測



90rpmの低速回転で安全測定